



※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和2年11月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



こんどう ちづる
近藤 千鶴 議員
(令和)

子どもを性犯罪、性暴力の被害から守るための性教育と被害対策

問 就学前の幼児、小・中学校性教育の内容は。

部長 幼児に対しての性教育はしていないが、プライベートゾーン※、体や命の大切さを指導。

教育長 小学校では体や心の変化、命の誕生を、中学校では生殖機能、性情報への対処、犯罪防止などを指導している。

問 性教育を教える外部講師との連携は。

教育長 連携することは有効である。助産師やNPO 法人と連携し実践している学校もある。

問 中学校の授業では性交・避妊・中絶に触れていないが、今の指導要領では性感染症・望まない妊娠などから子どもたちを守ることができないと思うがどうか。

教育長 中央教育審議会で教科領域が定められ

ており、それに基づいて教えていく。

問 インターネットが先生になってしまっている情報社会の中、教育長の強い意志があるか否かで指導要領を突破できると思うがどうか。

教育長 学習指導要領が基本。そこから外れることはできないと思う。

意見 様々な生活環境の中で、平等に性教育を学べない子がいる。義務教育の中で子どもたちが正しく学べる権利を保障してほしい。

問 犯罪被害者支援条例の進捗状況は。

部長 庁内関係部署と情報共有・連携を図り調整を進めているところ。

意見 性被害は「心の殺人」と言われている。1日も早い条例制定に向けて頑張してほしい。性教育の1番の課題は人前で話せないという性を遠ざけてる日本の恥の文化。性の話を簡単にできる雰囲気を作っていくことが大事。性教育に挑戦し、一歩踏み出してほしい。

※水着を着用した際に、隠れる部分のこと。水着ゾーンとも言う。



さの かずひこ
佐野 和彦 議員
(富岳会)

同調圧力と正常な判断

問 PCR 検査場の今後の課題と展開と、医師会との話し合いについて。

部長 市の検査場では1日12件まで対応できるが、これまでの平均は1日3.5件で現在は余裕がある。今後、検査の増加が予想される中、国では、かかりつけ医や県の受診相談センターに相談し、対応可能な医療機関を紹介してもらう流れとなっている。本市では26の医療機関が県の指定を受けて、18の機関が11月1日から運用を開始している。次の課題は、ワクチンが実用化された際、早期接種の体制整備であり、医師会の新型コロナウイルス感染症対策委員会に相談した上で、協議していただき進めていく。

問 新しい生活様式の実践を推奨しているが、

マスクをしての過度な距離や、食事の時に横並びで座るなど、矛盾しているところを、もっと分かりやすい富士宮市生活様式にできないか。

部長 たしかに分かりやすく伝えるのは大事なので、今後の広報で工夫をしていく。

農協の合併と農業政策

問 今後、富士宮市の農業施策により、どのような協力体制が考えられるか。

部長 合併のメリットを生かし、より一層農協及び関係機関と情報共有しながら協力体制を構築していき、地域の特色を生かした農業の活性化を図っていきたいと考えている。

ごみの減量化と助燃材について

問 ごみの分別をどこまで進めるか。

部長 現行の一般廃棄物処理基本計画では、新たな分別区分で、段ボールを含む紙類、プラスチック製容器包装を資源ごみに追加し、分別収集を検討したが、市民の負担と費用対効果を考え分別収集を採用しなかった。次期計画では国や他市町を見ながら分別を検討したい。